

RI第2620地区 静岡第3分区

## 沼津柿田川ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

RIテーマ「Reach within to Embrace Humanity」

RI会長	カルヤン・パネルジー
RI第2620地区ガバナー	積 惟貞
会長	太田 昭二
幹事	大石 昭裕
例会日時	毎週月曜日 12:30点鐘
例会場	清水町地域交流センター 〒411-8650 駿東郡清水町堂庭6-1 TEL 055-972-6678
事務局	〒410-0312 沼津市原1771-2 増田方 TEL 055-969-2321 FAX 055-969-2322 E-MAIL officework@rcj-nk.org

## 会長挨拶



第1430回例会 会長挨拶

会長 太田昭二

今年度のカルヤン・パネルジーRI会長のテーマは「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」です。このRIテーマは、RI会長から毎年出されるメッセージで、その年度を通じて奉仕活動の方向付けとなるものです。そして世界中の全ロータリアンがいつも気に掛け、理解し、実行していかなければならないものなのです。

それについて長崎東の三浦達美さんが、ロータリーの友3月号・友愛の広場に次の様子に書いています。“こころの中を見つめよう 博愛を広げるために”なぜ心の中を見つめると博愛が広がるのだろうか。何事においても大切なのは心である。奉仕という点から心の中を見つめると様々な気付きがあるはずだ。博愛とは程遠く、自分さえ良ければよいと言う自己中心的な自分、いかに多くのおかげで自分があるかということを忘れてる自分、狭い殻に閉じこもっている偏狭な自分などに気付くはずだ。そしてその気付きがこれではいけないという反省を促し、博愛を広げる働きに繋がるのではないだろうか。”

今一度、RI会長のテーマを復唱したいと思います。

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」

最後になりましたが、車谷さんが本社へご栄転の為、本日が最後となりました。ロータリー活動に熱心に励んでいただき心より感謝とお礼を致します。

車谷さんのこれからのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

## 幹事報告

## ■ 事務連絡 ■

\*ロータリーの友事務所より  
ロータリーの友4月号 到着

## ■ 例会変更 ■

ありませんでした。

## ■ 週報到着 ■

沼津RC・吉原RC

## 本日のゲスト・ビジター

ビジター 沼津北RC 石川征雄 様  
ゲストはありませんでした。

## スマイル報告

原 修一 結婚記念お祝いありがとう。  
野口郁夫 早退します。  
車谷秀明 三年間、大変お世話になりました。

## 会員卓話

～清水町の歴史を知るために～



古泉榮一 会員

明治初めに起きた徳川幕府彰義隊残党にまつわる物語です。明治元年10月、江戸の上野で官軍と戦って敗れその後赦免された彰義隊生き残りの隊士96人は、隊長 大谷内龍五郎と共に徳川慶喜の移封地・静岡に到着しました。静岡藩庁は隊士全員を小普請人として、一代限りの捨扶持で沼津在に押し込まれました。96人は、長沢村・本宿村・玉川村・伏見村・上徳倉村・下徳倉村・大平村の各名主宅や寺院に分宿させられました。在宿数ヶ月で蓄え金も尽きてしまい、扶持の増給を藩庁へ願い出ましたが、受け付けてくれませんでした。強固な団結を誇った彰義隊の隊士も時代の流れを見て、武士を捨てて新職業に就こうとする解党派が台頭してきました。時あたかも中条金之助の統べる新撰組が牧の原に移住し、ここを開墾して茶園を作る事業に努力している姿を見て、一層の刺激を受けて解党派の増大する事が明らかになってきました。これを見た反対派42人は明治2年7月10日、下徳倉の竜泉寺で会合して正義派として結合し、大谷内龍五郎を首領としました。隊長の大谷内は、古河藩国家老の次男で大谷内の養子で、彼は上野黒門口の戦いに奮戦して両手首に貫通銃創を負っておりました。彰義隊の豪の者として知られていた彼の宿所は、玉川村の名主・高田莊五郎宅で、高田讓八郎は「他の隊士の中には乱暴者も居たが、大谷内は無口で上品な方だった。」と語っておりました。

一方、解党派の首領は、斉藤金左衛門と朽原で、斉藤は才人で彰義隊組頭。朽原は真庭念流の使い手で、共に50歳前後だったと言われておりました。斉藤の家族は妻・長男 源八郎・次男 由太郎・長女・次女の6人で、下徳倉の名主・梅田忠兵衛方に住まっておりました。

こうした状況の中で正義派は、藩庁に再三に亘り待遇改善を迫ったが、藩庁はなかなか聞き入れてくれませんでした。隊士の窮迫した責任を負う大谷内は、遂に全員で静岡藩庁に出向いて窮状を訴える為に出発し沼津の大手門まで来ましたが、沼津郡役所の白戸石介が激しく阻止しました。その際白戸は、待遇を阻止するのは斉藤金左衛門・上野岩太郎で「自己の栄達の為に藩庁に通じているからだ。」と大家内に知らせました。

やむなく大谷内らが清水町に帰ると、まもなく彰義隊は形式的に解散してしまいましたが、正義派は上野・斉藤に甚だしく険悪な情を抱き、詮索すると藩庁への通謀も明確となりました。加えてその年の12月、両人は郡役所に任官することを知りましたので、怒り心頭にきた隊士は制裁を加える事となりました。

上野岩太郎は一つ橋慶喜(第15代将軍)の家臣で、17石3人扶持、42歳の母・妻 秀子・実弟 秀三郎とその嫁の5人家族で、上徳倉名主・龍蔵邸に宿泊していた。12月27日昼過ぎに大谷内は玉川村の宿所に上野を呼び、その行為を激しく詰問し激論したが、夕方となり帰宅することになりました。上野は上徳倉に向って堂庭村はずれまで歩いてきました。その時、田園の稲村の影

に隠れていた藤田寛三郎が出てきて大家内同様に上野を激しく非難し攻め立てました。上野は何を考えたか土下座をして低く頭を下げ、自らの罪を詫言いました。藤田は、抜き打ちに首を切り落とした。これは、手の傷が癒えない大家内が藤田に命じて討たせたと言われております。

同じ日に、斉藤金左衛門は正月の支度で沼津に買い物するため出かけました。藤田は上野を討ち取ると、その足で下徳倉村の名主・梅田忠兵衛方へ行き、斉藤の行方を正して元沼津中学校(現・沼津東高)裏手の徳倉街道で待ち受け、吉沢力松の応援を得て1時間に亘って戦い、斉藤の止めを刺してその場を去って行きました。翌朝検視人が検めると、橙(ダイダイ)ラッキョ・砂糖が風呂敷に包んだまま田園に遺されておりました。それを見た人達は、哀れに思い涙したと言われております。両人の首級は、翌28日に沼津勤番隊長・近藤太平の玄関口に投げ入れてあったそうです。堂庭蓮華時の墓地上野岩太郎の墓があります。墓碑の正面に上野岩太郎景明之墓・右側面に明治二己巳年・左側面に12月27日卒・そして裏面に、義施 大谷内龍五郎・藤原幸重・建之とあります。一方沼津市香貫町の光妙院の墓地には正面・斉藤金三郎之墓、他の面は上野と同じものが刻まれています。之は大谷内が慈悲で建立したものでした。郡役所の白戸石介に託した大谷内達の建白書は翌年認められたが、牧の原開墾地に移住することが付帯条件でした。その後牧の原へ移住した者は、朽原たち57人で、決定と同時に即座に移住を辞退し、東京へ帰った者は小川昌太郎ら24人。態度未決定は大谷内たち7人だったようです。大谷内達は明治3年8月まで玉川の高田家に滞在したが、山岡鉄太郎の説得で遂に牧の原へ移住することになりました。このことにより清水村はようやく安堵する事が出来ました。牧の原に移住した大谷内は、常に白装束を用意していたと言われておりました。そして明治3年12月20日、牧の原岡田の医王寺で開墾方 大草重高・軍学者 中田中(アタル)の立会いの下、上野岩太郎の実弟 秀三郎の介添え、斉藤金三郎の跡取り源八郎の介錯で潔く切腹して果てました。大谷内は「村雲に月はかくれてありしかとけふ晴れゆく死去のやまみち」と言う辞世を残しておりました。大谷内の遺骸は正法寺に埋葬され、法号・大賢院彰義幸重居士、36歳の生涯でした。

これが日本における最後のあだ討ちだと言われております。その後、上野は家名を回復したが、仇討ちをした斉藤の息子は士族を停止されましたが、後年は横浜の税関に勤務したと言われております。

この伝記については、清水町・清水小学校で編纂した「清水町誌稿」に掲載され、「鳥羽山氏の彰義隊残党遺文」よりのもので、多少私が脚色した部分があります。

## ご挨拶



車谷会員がご栄転により本日で退会となりました。最後にご挨拶頂きました。

～皆さん、3年間ではありましたが、皆さんとの交流を毎回楽しませていただきました。ありがとうございました。～

車谷秀明会員

(2009. 12.14～2012. 3. 31在籍)

## ◆次回例会プログラム◆ 卓話(菊地会員)

### 出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席計算に用いた出席者	出席率	3月12日修正出席率
13名	13名	8名	61.53%	83.33%

出席: 古泉・太田・原・野口・菊地 他 計8名

欠席: 菊地・前田・梅田・濱田・高田 計5名

MU: 前田 計1名